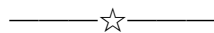


**MI 理論とハーバードの主要フレームワーク（理論的枠組み）
に関する資料のご紹介 （1）**

ハワード・ガードナー教授共著 ***Multiple Intelligences Around the World*** が昨年出版され、MI 理論およびこの理論に活用できるハーバードのフレームワーク（理論的枠組み）に関する和訳書が極めて限られている。そこで、オンライン上で公開した拙文の導入部をここに紹介する。



平成 20 年 1 月 15 日

Introduction to Multiple Intelligences Theory with Personal views

マルチプル・インテリジェンス理論の概要と私的考察

訳・編集 上條雅雄

—はじめに

「マルチプル・インテリジェンス理論：Multiple Intelligences Theory」（MI）は 1983 年に、恩師ハワード・ガードナー教授著 *Frames of Mind* によって紹介された。ハーバード大学教育学大学院のプロジェクト・ゼロの諸研究にはこの理論が底流に流れていると思う。2003 年に始まった SSTA（ソニー科学教育研究会）の Project Zero Classroom, Harvard Graduate School of Education における海外研修プロジェクトの立ち上げに参画し、その時に「理解のための教育：Teaching for Understanding」（TfU）の概要に関して纏める機会を得たが、昨年恩師から届いたサイン入りの最新著 *Multiple Intelligences：New Horizons*. を読む機会があり、今回はこの最新版 MI 理論書に基づいて個人的考察も少し加えて原書への導入編として、抜粋し、概要の訳と編集を試みた。長年にわたる理論の導入後の反応や、最近の脳医学の研究に基づいたこの理論を支える科学的な根拠、事例などの情報が入り、一層と深みが出てきたようである。詳細に関しては是非、原書も参照して頂きたい。

☆☆☆**目次**☆☆☆

—はじめに

I. マルティプル・インテリジェンスとは

II. 何がインテリジェンスを構成するか。： What Constitutes an Intelligence?

インテリジェンスとは、個性とは

マルチプル・インテリジェンスの基準：The Criteria for Multiple Intelligences

III. 一組のインテリジェンス： The Set of Intelligences

音楽インテリジェンス：Musical Intelligence

運動感覚インテリジェンス：Bodily-Kinesthetic Intelligence

論理-数学インテリジェンス：Logical-Mathematical Intelligence

言語インテリジェンス：Linguistic Intelligence

空間的インテリジェンス：Spatial Intelligence

対人関係インテリジェンス：Interpersonal Intelligence

内省的インテリジェンス : **Intrapersonal Intelligence**

新たに加えたインテリジェンス **Newly Identified Intelligence**

博物学者的インテリジェンス : **Naturalist Intelligence**

IV. インテリジェンスとドメイン : **Intelligences and Domains**

V. 理解へのマルチプル・エントリー・ポイント :

Multiple Entry Points to Understanding

説話的 EP : **Narrational Entry Point**

論理的 EP: **Logical Entry Point:**

根拠的 EP: **Foundational (or Existential) Entry Point**

審美的 EP : **Esthetic Approach**

経験的 EP : **Experiential Approach**

共同制作 EP : **Collaborative Approach**

EP とその活用効果

VI. マルティプル・インテリジェンス (MI) 理論と TfU フレームワークの関係

MI レンズの特徴とその活用

VII. インテリジェンスは「道徳的に中立」である

—おわりに

References

☆☆☆ * * * * ☆☆☆

I. マルティプル・インテリジェンスとは

ネットワーク社会が急速に変化している。技術の進化がそれを支えているが、「その中心はあくまでも人間」であるべきであると思う。ガードナーは人間の能力の開発について、次のように述べている。

Multiple Intelligences (マルティプル・インテリジェンス) は有用なメディアや資料、手段によって供される。教育者自身の好みのスタイルには関係無く、異なる知性 (複数) 又は知性の組み合わせに話しかける教育資料が導入され得る。実際、将来“同一の”教科コンセプトまたはフレームワークへの、まったく個人毎のアプローチを各学生へ供することが可能になるであろう。

全ての人々の **intelligence** (知性) の開発は我々の時代の基本的な目的でなければならない。平和、民主主義、世界中の自由を保証するために個人の、あらゆる市民の知性の開発が世界の全ての国の国家的ゴール、全世界のゴールにならないといけない (Gardner, *Choice Points*. 1993)。

インテリジェンスとは、個性とは

ガードナーは *Frames of Mind* (1983) の中で「人間には7つの **intelligences** があるという MI 理論」を提唱した。ガードナーは「インテリジェンス (知性) とはある一定の方

法でインフォメーション（情報）を処理する生物心理学的潜在力であり、この潜在力はある文化において価値があると認められている問題を解くとか、価値がある成果を生み出す時に、その文化的背景において活性化される。」と定義する。“**Intelligence is the bio-psychological potential to process information in certain ways that can be activated in a cultural setting to solve problems or make products that are valued in a culture (Intelligences Reframed. p. 34)**” その後ガードナーは7つの intelligences に、もう一つ intelligence を加え、現在8つの intelligences の存在を確認している。MI 理論によれば、個々人には、8つで構成される一組の intelligences が備わっているが、それぞれの intelligence の強さは人によって異なる。また、intelligences は学び得るものであり、人はより賢くなり得る。言い換えると我々のインテリジェンス プロファイルは変化する。さらにある特定のインテリジェンスが幾つかの領域（domain：例えば、物理学、料理、チェス、音楽演奏）の中に現れる。どんな領域も、いくつかの intelligences によって実現される（Gardner, 1999, p.82）。⇒この続きは下記の財団法人ソニー教育財団のサイトをご参照下さい。

http://www-sec.sony-ef.or.jp/institute/pdf/Multiple%20Intelligences_.pdf